

長谷川英人君の早逝を悼む 上田高校新聞班の思い出

中山 正光(11組)

新年早々の1月2日、同期で高校時代新聞班班長だった長谷川英人君(8組)が早逝されました。膵臓癌だったとのこと、薬石功なくの逝去で痛恨に堪えませんでした。

関東同窓会会報の近況欄に「抗癌剤を投与しているが快復方向だ」と書いてあり、今年の年賀状もきちんと届いていたので安心していただけのことでした。

彼は塩田中の秀才で高校入学後即「新聞班」に入りました。同期には「澤井繁男(7組)、佐藤昭二(10)、柳澤修一(10)、中村宣夫(7)、小出俊(11)、松崎伸一(6)、飯島(現姓小瀬)澄子(11)と彼と私(中山11)」の9名でした。新聞班の部室は最西端の3軒長屋にあり、近くに「物理班、郷土史研究班、美術班」などがありました。入班時の班長は生徒会長を兼務していた山浦善樹氏(一橋大卒、現最高裁判事)で3年生は総勢猛者8名でした。2年生は次の班長をした久保田英二氏(京大卒)など10名もいましたから、部室はごった返しの様相でした。1年生の時は原稿は書かせて貰えず、専ら広告取りに専念しました。

上田高校の新聞はタブロイド版10円、ブランクセット版20円での有料販売方式(号外は無料)でしたので、長谷川君達と毎回各教室や職員室に売りに行きました。中々売れず困りましたが、「大学合格者掲載号」だけは飛ぶ様に売れました。2年生の後半に「班長選挙」があり、長谷川君を含め3人が立候補しました。一番寡黙の長谷川君が予想に反し当選しました。長谷川君は編集長の松崎君と「12回新聞を発行する」と決め他班員に通告しました。結局彼はこれをやり遂げるのですが、相当勉強を犠牲にしたことと思います。

一番の思い出は、同期のみんなで東京九段会館にて行われた「全国高校新聞大会」に長野県を代表して出席したことです。仲間には温度差があって、長谷川君達は大会に参加が主目的でしたが、他は「観光旅行と大学巡り」をしていました。

次の思い出は毎月開催された「上小高校新聞研究会」です。これは「染谷ヶ丘、上田東、丸子実、千曲、上田」が当番になって各校での新聞を持ち寄っての研究(討論)会でした。楽しみは終わってからの「フォークダンス」。

あとは、松尾祭への参加です。長谷川君は「世界の宗教についての考察」を掲示板に記載したのですが、女生徒は勿論在校生には全くの不人気でした。当然ですが……

兎に角、みんな青春を謳歌しつつ、何事にも熱心でした。

当時は今のようにパソコンなどありませんでしたから、原稿は全て手書きで、それを印刷屋に持参するのですが、全て活字を拾って並べるやり方でした。これをグラ刷りした後、担当教官だった井出賢次先生や丸山正人先生の厳しい検閲を受けるのです。その頃は大学紛争が始まって高校にもそれが飛び火しつつありましたから、危ない意見や思想は全て赤線を入れられました。弱い立場の僕らは抵抗も空しく殆ど書き直されてしまい、印刷屋のおじさんに相当文句を言われたのを思い出します。長谷川君は立派にリーダーシップを取り、12回発行を実現したのです、彼は偉かったです。

一橋大を卒業後、旭化成工業に入社しました。同期では宮沢憲一君(10)の二人でした。会社のことはよく分かりませんが、彼なりに頑張ったと想像します。その後、旧新聞班0Bでの集いが何回かあり、彼も頻繁に参加してくれました。30年以上前、私が日立製作所勤務で香港在の時、奥様と現地を訪問され、私の家族と美味しい中華料理を楽しんだのもつい昨日の様です。

旭化成を定年退職されて、これからという時の旅立ちのご本人もさぞ無念かと思います。

しかしながら、悲嘆ばかりしていても天上のご本人は喜ばないでしょう。前述の山浦氏や久保田氏と相談して、なるべく早く「旧新聞班の集い」を行って、みんなで昔を偲ぶ会を元気に開こうと考えています。合掌！！！！

(2013年1月6日記)

【写真説明】

写真1 修学旅行(京都)での長谷川君

写真2 高校3年の時の新聞班、前列左から2番目が長谷川班長

写真3 高校2年の時の新聞班、後列左から5番目が長谷川君
(他の同期の皆さんの説明は省略)



写真1



写真3 後列左から5番目が長谷川君



写真2 前列左から2番目が長谷川班長